

カメラのなみだ

いたずらずきの コンキチは、いつも こまった ことを します。

その 日も、コンキチの いたずらが はじまりました。ピオン子が、いっしょうけんめい そだてて いる かだんの 花を ひっこぬいて います。カメラは、コンキチに こえを かけました。

「コンキチくん、やめなよ。ピオン子ちゃんが、かなしむよ。」

「うるさい やつだな。」

コンキチは、かだんの 土を カメラの ほうへ なげると、むこうへ 行って しまいました。土が 目に 入って しまった カメタは、目を こすりました。こすると ぽろっと なみだが 出ました。

つぎの 日、みんなで なわとびを して いると、コンキチが やって きました。

「おれも、まげて くれ。おれが、まわして やるぞ。」

コンキチは、なわを まわして いた ピオン子から なわを とりあげ、らんぼうに まわしはじめました。

「やめて。やめて。」

みんな、にげまわって います。カメラは、コンキチに いいました。

「コンキチくん、やめなよ。みんな いやがって いるよ。どうして

そんな こと するの。」

「なんだと。うるさい。みんな きらいだ。」

コンキチは、カメラを けとばして むこうへ 行って しまいました。カメラは、けられた ところを さすりながら コンキチの うしろすがたを 見つめて いました。すると、

ぽろん

カメラの 目から なみだが こぼれました。

きょうも、コンキチは ピオン子の だいに して いる かみかざりを とりあげて います。それを 見て いた カメタは、こんどは こうらに とじこもって しまいました。まっくらな こう

らの 中でも、こえは きこえて きます。

「コンキチくん、かえして。」

「やだね。ここまで おいで。」

きいて いる うちに、

ぼろん ぼろん

カメタの 目から なみだが こぼれて ききました。

しばらく こうらの 中で じっと

考えて いた カメタは、やがて コ

ンキチの ほうへ あるきだしまし

た。

「なんだ、おまえか。また、けとばし

て やろうか。」

コンキチは、カメタを にらみました。

カメタは こうらに あたまを ひっ

こめたく なりました。でも、ぐっと

こらえて いました。

「コンキチくん、やめなよ。コンキチ

くんも いっしょに なかよく あそぼう。」

じぶんでも びつくりする くらいの大 きな こえが できました。

コンキチは、ぽかんと して きいて いました。やがて、コンキチ

の 目から、ぽろっと なみだが こぼれました。それを 見た カ

メタは コンキチの 手を そっと にぎりました。

お日さまが ふたりを あたたかく つつみました。

○ カメタは、こうらの 中で じっと どんな ことを 考えて いたでしょう。

○ コンキチに、「やめなよ、いっしょに なかよく あそぼう」と いった とき、カメタは どんな きもちだったでしょう。



